

ORIENTAL STUDIES TRIPOS Part II  
Japanese Studies

---

Tuesday 1 June 2010

09.00- 12.00

---

**J.10 MODERN JAPANESE 2**

*Answer **all** questions*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Section booklet.*

**STATIONERY REQUIREMENTS**

*20 page Answer Book x 1  
A Rough Work Pad*

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed that you may do so by the Invigilator

1 Translate the following passage into Japanese (kanji and kana): [30 marks]

'Tell her I want to marry her.'

I told her.

'What was that she said?'

'She asked me if you were serious. I told her you were the serious type.'

'I suppose this is an odd situation,' he said. 'Me asking you to translate.'

'Rather odd.'

'And yet it seems so natural. After all you are my best friend.'

'It's kind of you to say so.'

'There's nobody I'd go to in trouble sooner than you,' he said.

'And I suppose being in love with my girl is a kind of trouble?'

'Of course. I wish it was anybody but you, Thomas.'

'Well, what do I say to her next. That you can't live without her?'

'No, that's too emotional. It's not quite true either. I'd have to go away, of course, but one gets over everything.'

'While you are thinking what to say, do you mind if I put in a word for myself?'

'No, of course not, it's only fair, Thomas.'

'Well, Phuong,' I said, 'are you going to leave me for him? He'll marry you. I can't. You know why.'

Graham Greene, *The Quiet American* (Penguin: 1985) pp.76-77.

2 Summarise this passage in Japanese (about one and a half sheets of genkō yōshi). [35 marks]

## ODAとNGOの基本的考え方の違い

NGOとODAの国際協力に対する考え方の違いは三点ある。

まず、協力の対象となるのは地域の人々か国家かという違いがある。昨今、日本政府は「顔の見える援助」という言葉を使っているが、

その主語はあくまで「日本人」であり、援助の受益者となる「地域の人々」ではない。ODAが、国家から国家、政府から政府への援助であり、国家、国民の利益のために行われるのに対して、NGOによる協力は市民から市民への協力である。NGOによる協力は、国家の利益を乗り越えた「地球人から地球人」への協力、地球の一面を占める地域から他の地域への協力である。ODAの援助の前提には、国家の経済成長が達成されれば、その国の住民の生活も向上するという原則があるように思われる。しかし、われわれの経験では、国家の経済成長が必ずしも地域の人々の生活向上にはつながらず、逆に貧しくなっている例を数々みてきた。

次には、第三世界の人々の伝統的な生活は遅れているのか、それとも自然と共存した豊かなものであるか、という見方の違いがある。日本の援助の場合、市場経済の導入と経済的な離陸を目指した協力を基本原則としており、その根本には第三世界の人々の生活を日本のようにするという発想が見受けられる。NGOによる協力は双方向的、あるいは多方向的であり、経済成長を目指す開発のような単一の価値観、方法を押しつけることはない。

question continues....

(TURN OVER

さらには、第三世界の貧困や環境破壊などのさまざまな問題の原因の  
とらえ方である。NGOはそれは先進国と第三世界に横たわる構造的な  
問題が本質的な原因であると考えている。その理由を少し述べてみたい。  
われわれの生活は、すでに抜き差しならぬほど、モノとお金のうえで、  
国境を越え、地球規模で生きている。しかし、意識、情報のうえでは、  
日本という国の枠のなかで孤立し、地球に生きるという自覚を持たずに  
暮らしてきた。

地球人口の二パーセントの日本人は、世界の水産資源の六分の一、熱  
帯材の二〇パーセント、アルミニウムの一三パーセントを消費し、バン  
グラデイシユ人の六二倍のエネルギー、カンボジア人の一一〇〇倍の紙  
を使っている。大量生産、大量消費、大量廃棄を続け、限られた資源を  
浪費し、地球環境を壊してきた。JVCが活動しているタイ中部で生産  
されたトウモロコシは鶏の餌にされ、その鶏肉は日本に輸出され、日本  
人が食べている。われわれは焼き鳥を食べるとともに、タイの自然と農  
民の生活を食べている。

経済開発とそれに伴う問題は、日本からタイへ、都市から農村へと国境を越えてさらに周辺部にあるカンボジア、ラオス、ビルマへという具合に急激に進んでいる。一九九二年にリオデジャネイロで行われた国連・環境と開発会議でも、先進国の大量消費の責任が問われ、環境問題はすなわち南北問題だという認識が強く打ち出された。特に世界各地からリオに集まった二十万人の市民から、「これまでのような開発をやめない限り、地球環境は守られない」という主張が、全世界に発信された。日本や他の先進国が中心に進めてきた経済開発と、それに基づいた大量消費生活自体が、地球全体の利益（地球益）を蝕み、自分と家族の未来を蝕んでいる。

特に、経済開発が、地球環境とともに暮らしてきた途上国農村部の人々の生活を壊しているという点である。インドのNGO、環境科学センターのバンダナ・シーバ女史は「際限ない自由貿易が環境を破壊し、近代農法が飢餓をつくり出した」と語っている。

3 Write a letter in Japanese (one and a half sheets of *genkō yōshi*) following the instructions below: [35 marks]

You live in a flat with a tenancy agreement which requires you to give three months' notice. You have paid a deposit of two months' rent. Now you have a family problem and you need to return home as soon as possible.

Explain the situation and ask for clemency.

END OF PAPER